

特別寄稿

沼隈病院+まり福祉会の合同忘年会にて
平成28年12月開催

私が感動した 1冊の本

社会医療法人社団 沼隈病院
理事長 檜谷 まりこ



毎年私どもグループの忘年会は一同に会して行います。

通常私たちの仕事の性質上、各々の持ち場を離れることは難しく、なかなか一同が会することは困難です。しかし忘年会はその年1年の締めでもあり、我々の大切な親睦の場でもあり、皆楽しみに大切にしています。難しいことですが挨拶を通して、私自身が及ばずながら多少でも年毎に成長を示せるよう、皆に後れを取らぬよう、心して医療人として、また人として努力していかなばと思っています。

ところで皆さんご存知のとおり、当節医療界はとても厳しい状態にあります。パナソニックの創始者である松下幸之助氏は「好況よし、不況なおよし」と言われたと聞いております。不況が尚良いとは…?と一瞬何故かと思いました。

しかしなるほど好況時は人の財布もいささか緩み、少々雑でもそれなりにやっていたけれど、不況になれば財布の紐もしっかり締まり、その分より良いものは人々は慎重に吟味します。厳しい目に耐えうるもののみ選ばれ、生き残れるということ。それゆえ組織として成長できるチャンスといえるのでしょう。

そのことをより一層明確に認識し、心して日々研鑽に努め私たちは患者さんへ選ばれる医療人にならねばと思います。

さて今年度(H28年度)忘年会挨拶といたしまして、私の心に残った一冊の本「心願に生きる」(致知出版社)を取り上げさせていただきます。

木村ひろ子さんは生後間もなく
脳性麻痺になった。

手足は左足が少し動くだけ。ものも言えない。
しかも三歳で父が、十三歳で母が亡くなった。
小学校にも中学校にも行けなかった。
わずかに動く左足に鉛筆を挟んで、
母に字を習った

皆さんには(特に私たちの仕事柄)どんな状況が直ぐ想像出来ると思います。

彼女の詠んだ短歌がある

不就学

なぜかず左足に辞書めくり

漢字暗記す雨の一日を



左足で米をといでご飯を炊き、墨をすって絵を描き、その絵をうって生計を立てた自分のためにだけ生きるなら芋虫も同じと、絵の収入から毎月身体の不自由な人のために寄付をした。

彼女は言う。

「私のような女は、脳性麻痺にかからなかったら、
生きるということのただ事でない尊さを知らずにすごしたであろうに、
脳性マヒにかかったおかげさまで、
生きるということが、どんなにすばらしいことかを、知らしていただきました。」

この状況でこんなに素直な気持ちで、感謝しながら生きられることに私は驚き感動しました。

つまりこの主人公である木村ひろ子さんは自分の境遇を親や世間のせい

にして恨まず、妬まず、寧ろこの境遇だったからこそ、“生きるということのただ事でない尊さ”を自分のようなものでも、しっかりと感知させてもらえたと、心から感謝されています。

それに引き換え、私たちは“生きるということのただ事でない尊さ”を毎日感じて、生きていますでしょうか？

当たり前に空気を吸い、手も足も動き、仕事場に何ら不自由なく通える。そのことを本当に意識し、感謝しているでしょうか。

恵まれている故の不平不満の如何に多い事でしょう。

足りない事は数えて、与えられていることは当たり前。

与えられていることを数えればキリがないほどあるでしょうに。

彼女の文章を目にするにつけ、自分の思い上がりや嫌というほど知らされ、反省します。

そしてまた、彼女の墨絵(不自由な左足で一生懸命描いた)もいくらかも収入にならなかったでしょうに、それでもその中から寄付をした。

苦勞し、その苦勞にめげない心の強い人ほど、他に優しくなれるのだと、教えられました。

また更にその素直さにも、感動せずにはられません。

素直ということは、右を向けと言われたら右を向き、左を向けと言われたら左を向くという、ただ単に言われた通りに従うということではないでしょう。

人の意見をよく聞き、そのことから自らの至らなさに気付き、認める。それゆえ惜しまず努力する謙虚な姿勢を身につける。つまり人の意見をよく聞くダンボな耳と自分自身を見つめる真摯な目ということでしょう。

☆そしてこのことより感謝の心と素直な心ということを少し考えてみましょう。

感謝の心

幸福の呼び水

素直な心

進歩の親

感謝の心が幸福の呼び水なら、素直な心は進歩の親であるかもしれません。自分の耳の痛いことも、真つすくな気持ちで聞き、改めるべきは明日と言わず今日からすくすく改める。



素直な心が私たちの能力を伸ばし心の向上を促します。(稲盛和夫著「生きる」より)最後に次の言葉を紹介いたします。

喜べば

悲しめば

「喜べば喜びが、喜びながら喜びを集めて喜びに来る。」



悲しめば悲しみが、悲しみながら悲しみを集めて悲しみに来る」

喜べば、喜び感謝する心がまた次々と互いに連鎖し更に喜びを運んでくる。以上の様な事柄を、心しながらお互い、喜びの種をまく人生を送りたいものです。

追記：福山医療センターの皆さま、昨年大変お世話になりました。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。